

人間社会学部 人間スポーツ学科 教育専門分野 TLO : Target and Learning Outcomes

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナン バ リ ン グ	科目 種 別	単 位	主 要 科 目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
										スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。	スポーツ・体育・健康に関するデータを用いて、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを広範かつ実際的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身に付けている。	人間の実生活の中で健康及びスポーツが精神、文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力を持っている。	健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有している
学 科 間 共 通 専 門 科 目	基礎演習	M-SEM201	200	演習	2	○	スポーツ(運動)および健康に関する個人研究または共同研究を行うための基礎力を身につける。	研究や課題を実施するための計画(テーマ設定、研究方法やデータ解析の方法の選択など)を立案することができるようになる。	研究、調査、実験、共同作業		◎	○	◎	○	
	専門演習	M-SEM301	300	演習	2	○	研究テーマを設定し、研究計画の立案、研究の実施を通して、スポーツおよび健康に関する問題解決のスキルや考える力、アウトプット力を身に付ける。	スポーツ(運動)や健康に関する問題を見つけ出し、具体的な課題として設定し、解決できるようになる。また、研究を実施する際に必要となる倫理について、知見を身につけることができるようになる。	問題解決、課題設定、研究、調査、実験、倫理		◎	○	◎	○	
	卒業研究	M-SEM401	400		2	○	専門演習における研究成果を、論文などの形式でアウトプットすることを通して、社会で求められる調査・分析・報告といったスキルに関わる総合的な学力を高める。	選択した方法論に基づいて得られた成果を論文や制作物等の形で表現することができるようになる。	卒業論文、卒業制作、アウトプット		◎	○	◎	○	
	教育原理	T-EDU108	100	講義	4		「教育とは何か」に視点を置きながら、教育の理念、思想、歴史等について基礎的な知識を網羅的に学習する。	1. 教育の理念や目的を理解している。2. 教育の歴史や思想を理解している。3. 学校教育や社会教育等に関する基本的事項を理解できる。	教育の理念、教育の目的、教育の思想、教育の歴史、学校制度、生涯学習		◎			○	○
	教育相談	T-EDU109	100	講義	2		教育相談を心理臨床学の視点からとらえ、基本的な理論及びその実際を学ぶために、多くの事例を学ぶ。	実践的かつ理論的な対応法は、基礎的・体系的な知識を欠くことが出来ないもので、心理臨床学に裏打ちされた教育相談の基本を体系的に理解できる。	教育相談、こころの構造、いじめ、アセスメント、カウンセリング、こころの病理、発達失調、登校拒否						
	社会福祉概論	M-SWS101	100	講義	4		子どもや高齢者、障害のある人などすべての人たちの尊厳が守られ、安心して生活できる地域や社会の創造に向けて社会福祉の果たす機能や役割など、基本的な知識を学ぶ。	社会福祉の概念や定義を理解する。その上で、社会福祉の様々な分野や関連する施策、制度、サービスについて理解を深めることができる。	社会福祉の概念、歴史的展開、権利擁護、社会福祉の理論、社会政策の基本的な視点、福祉サービスの供給と利用の過程						
	子ども家庭福祉	M-SWS222	200	講義	4		子どもや家庭を取りまく地域や社会の現状を理解し、子どもが健やかに育ち、その尊厳と権利が守られる社会の実現に向けた子ども家庭福祉の全体を学ぶ。	子どもや家庭を取り巻く社会環境や、現代社会の子ども・子育て・子育てへの影響を理解できる。その上で、子ども・家庭への支援や施策、法制度などについて理解できる。	子どもの権利、子どもと家庭・地域、子ども・子育て支援の諸施策、児童虐待防止、社会的擁護、制度・サービス						
	医療社会論	M-SOC311	300	講義	4		医療の社会的役割や影響力、またその受容について、さまざまな角度からクリティカルに考えていく。	医療社会論において論じられている具体的事例について考えるための方法とスキルを身につける。	医療社会論、健康と病の経緯、病人役割、感染症と社会的排除、優生思想、専門家支配	◎			○		
	教育心理学	T-EDU110	100	講義	4		教育場面に関わる心理学として4つの柱(発達・学習・測定・評価、人格・臨床)を中心に学ぶ。教職必修科目である。	子どもや保護者の心理、学習や記憶のしくみを理解し、どのように教育評価を行ったり、生徒に接するべきかについて理解を深めることができる。	生涯発達、学習・記憶、教育評価、知能指数、発達障害、カウンセリングマインド						
	発達心理学	T-PSY101	100	講義	4		乳幼児期から老年期のころと身体の発達、各時期で遭遇する問題とそれらへの対処法を学ぶ。	人間発達の特殊性と、乳幼児期から老年期の各段階ごとの発達課題と生じやすい問題、病理の特徴を理解できる。	生涯発達、家族関係、アタッチメント、認知発達、発達障害、介護、虐待						

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナン バ リ ン グ	科目 種別	単 位	主 要 科 目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				講義 演習 実習 PBし など			授業科目で何を目的に学修し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学修を通じて学生がどのような学修成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学修の参考となる重要なキーワードなど	スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。	スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析して、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを広範かつ実際に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	人間の実生活の中で健康及びスポーツが精神、文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力を持っている。	健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有している
	対人関係論	M-PSY207	200	講義	4		対人場面における人間の心理行動を社会心理学の諸理論から学修する。	対人場面における人間の心理行動を社会心理学的見地から理解するとともに、社会心理学の諸理論に対する理解を深めることができる。	思考力、知識の理解、専門知識、基礎的学修、当該領域への関心、批判的思考力、自律性						
	社会心理学	M-PSY202	200	講義	4		多様な社会場面における人間の心理行動を社会心理学の諸理論から学修する。	多様な社会場面における人間の心理行動を社会心理学的見地から理解するとともに、社会心理学の諸理論に対する理解を深めることができる。	思考力、知識の理解、専門知識、基礎的学修、当該領域への関心、批判的思考力、自律性						
	スポーツの歴史と文化	M-SOC209	200	講義	4	○	スポーツを一つの文化として捉え、それが近現代社会のなかでどのような歴史を経て人びとに受け容れられてきたかを理解し、そこから自分の言葉で今後のスポーツのあり方を考えていくことができるようになる。	近現代社会において、スポーツがいつ頃からいかに受容されたのか、その過程でどのような軋轢や抵抗、また進歩や発展が示されたのか、従来からある価値意識とどのように融合してスポーツが展開してきたかを理解し、それを踏まえて、将来のスポーツのあり方を自分で考えられるようになる。	スポーツ、遊び、祝祭、歴史、日本近代史、日本現代史、社会史、近代化、社会変動、社会構造、文化、規範、価値意識。				○	◎	
	スポーツ心理学Ⅰ	M-HES112	100	講義	2	○	学校教育における体育・運動、競技スポーツやレクリエーションとしてのスポーツ、健康・医療領域での運動やスポーツ、および日常生活での運動行動などについて心理学的観点から学修する。	スポーツの心理面への影響、運動学習のメカニズム、運動による健康の増進、競技者の心理などの理解を通して、心理学的観点からスポーツをより深く理解できるようにする。	運動と知覚、運動の学習と指導、スポーツと動機づけ、スポーツの社会心理、運動行動の変容、競技心理、メンタルトレーニング、スポーツ臨床		◎	○		○	
	パラスポーツ論	M-HES358	300	講義	2	○	本講義では、多様な障がいを持つ人たちがよって行われているパラスポーツの実態について学ぶ。また、障がい者のスポーツ活動に伴う様々な問題点をスポーツの特性と社会的な視点を絡めて考察する。さらに複数のパラスポーツを実際に体験することを通じて理解を深め、障がいを持つ人のスポーツ活動を指導、支援する資質を習得することを目的とする。	・多様な障がいの種類と、スポーツ活動実践に伴う課題を理解する。 ・パラスポーツに関わる問題を社会的な視点から説明できる。 ・障がいの特性に応じて考案されたスポーツのルールと、その基本的な考え方を説明できる。 ・パラスポーツの実践を通じ、障がいを持つ人と共にスポーツを行う資質を養う。	障がい者スポーツノーマライゼーション、多様性 パラスポーツ実習		○		○	○	○
	人間社会学部特殊講義 A	M-OAR314	300	講義	2		学部の判断で様々な内容に関する講義主題を選び、多様で幅広い観点から学ぶ(15回相当の授業)。	講義主題について学んだことを理解し、要点をまとめ、発信できる。	主題別		◎	○	○	○	
	人間社会学部特殊講義 B	M-OAR315	300	講義	4		学部の判断で様々な内容に関する講義主題を選び、多様で幅広い観点から学ぶ(30回相当の授業)。	講義主題について学んだことを理解し、要点をまとめ、発信できる。	主題別		◎	○	○	○	
	身体づくり運動（保体教職）	M-EDU206	200	実技	2		教員免許状(保健体育科)取得を目指す学生を対象とし、授業者および学習者の両視点から実技授業を作って、教えて、学ぶ。	指導イメージを身に付ける。自己の指導上の課題を発見する。自己の役割や責任を果たし、グループで合意形成を図りながら協力して進めることができる。	保健体育教師、資質能力、よい指導、グループワーク、アクティブラーニング			◎	◎	○	○
	学校インターンシップⅠ	M-EDU207	200	実習	2		実地活動を通じて学校現場や教師の仕事の実際に触れ、自己の適性や教職生としてこれに必要な学び、身に付けなければならない課題(知識・技術)等の理解と自覚を促すとともに、履修者の教職に対するモチベーションを高めることを本科目の目的とする。	1:児童生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握している。2:年間を通して担当教員等の補助的な役割を担うことで、学校現場の実態を広く理解している。3:体系的な活動を通して、教職への自己の適性や今後必要な知識・技術等への課題を自覚している。	・実践体験型の学修 ・自己適性への省察 ・現代の子ども理解	◎		◎	○	○	

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナン バ リ ン グ	科目 種別	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
										スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。	スポーツ・体育・健康に関するデータを取集、分析して、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを広範かつ実務的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	人間の実生活の中で健康及びスポーツが精神、文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力を持っている。	健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有している
	学校インターンシップⅡ	M-EDU308	300	実習	2		学校現場での実地活動を経験し、学習指導、生徒指導、学級経営等の実務をより深く理解させる。あわせて教育実習に臨む意欲や態度を培うとともに、教育実習実施までに修得すべき知識・技能等の自己課題を自覚させることを本科目の目的とする。	1. 学習指導に必要な基礎的知識・技術等を実地に即して身に付けている。2. 適切な場面におけるICT機器の活用などを実際の実地活動を通して理解している。3. 特別な配慮を要する子どもへの指導等について、体験を通じて理解している。4. 学級担任の役割や職務内容等を実地に即して理解している。	・実践体験型の学修 ・教職へのモチベーションの向上 ・学校現場全般の基礎的実践知の修得		◎		◎	○	○
	学校インターンシップⅢ	M-EDU402	400	実習	2		大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技術等(教育実習での成果・課題を含む)と実地活動での体験を往還的に結び付け、教員として必要とされる必要最適限の力量を形成する。あわせて、大学卒業後、教員として遵守すべき職務や学校実務を実地に即してより深く理解するとともに、積極的に社会に参画する意欲・態度等を培うことを本科目の目的とする。	1. 教科に関する最新の知識や教授方法等を修得し、学校現場での活用方法等について理解している。2. 教員の使命や役割、遵守すべき法令等を深く理解している。3. 専門的職業人として積極的に社会に参画する意欲や態度が身についている。	・実践体験型の学修 ・学校現場全般への応用的実践知の修得 ・学問知と実践知の往還を通した確かな教員像の確立		◎		◎	○	○
	衛生・公衆衛生学	M-HES304	300	講義	2	○	社会や環境とヒトの健康の保持増進との関わりについて学修する。	身近な環境問題と健康、生活習慣病や高齢者問題、人口問題と医療費、学校や地域、職場における健康づくりの現状について理解できる。	健康、環境、社会、人口、医療、保健				○	◎	
	解剖学	M-HES110	100	講義	2	○	ヒトの筋骨格系、脳神経系、呼吸循環系の形態や構造を学び、正常な人体の構造について学修する。	筋骨格系、脳神経系、呼吸循環系に関する人体の基本的な構造について説明できる。	人体の構造・形態、筋肉、骨、脳と神経、肺、心臓と血管系	◎	◎		○		
	応用スポーツ医学ⅠA	M-HES245	200	講義	2	○	現在の運動疫学及び国の健康づくり施策、運動基準や運動指針について学んだ後運動による生理学的変化と運動実施がもたらす身体組成や生化学検査に及ぼす効果について学修する。	現在の運動疫学及び国の健康づくり施策、運動基準や運動指針について学んだ後運動による生理学的変化と運動実施がもたらす身体組成や生化学検査に及ぼす効果について習得する。	生活習慣病、介護予防、健康づくり、メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧、脂質異常症		◎		○	○	
	応用スポーツ医学ⅠB	M-HES246	200	講義	2	○	生活習慣病予防と運動による生理学的変化と運動実施がもたらす身体組成や生化学検査に及ぼす効果について解説する。また、運動実施による内科的障害や外科的障害の内容とその対処法について解説する。	幅広い年代の健康づくりのための運動の実践やハイリスク者を対象とする安全な運動指導に関する幅広い知識の理解。また、生化学検査結果の見方理解できる。	糖尿病、ロコモティブシンドローム、健診結果の読み方、内科的障害、外科的障害、虚血性心疾患、運動器退行性疾患		◎	○	○	○	
	救急・応急処置	M-HES343	300	講義	2	○	集団が集まる場所で発生する事故や病気に対処する救急・応急処置の知識と実践を学修することを目的とする。	急性障害や急性疾患に対する対応と処置の仕方、及び一次救命処置についての理解と実践を身につける。また、現場における救急対応計画について理解できる。	心肺蘇生法、AEDによる除細動、気道異物除去、三角巾による固定法、頭頸部外傷への対処、搬送法		◎	○	○		
	体力測定評価	M-HES226	200	講義	2	○	体力・運動能力測定の意義と測定項目および方法、結果の評価方法について学修する。	体力・運動能力測定の意義と手法を理解し、安全で正確な測定法とその評価法を身につける。	体力、運動能力、体力測定法、体力評価法、運動能力測定法、運動能力評価法		◎	○	○	○	
	スポーツ産業論	M-HES248	200	講義	2	○	スポーツ産業は用品、施設、スポーツクラブ、プロスポーツ、メディアなど多岐にわたる。スポーツ用品産業(事業戦略、マーケティング、生産、販売促進、営業(販売)活動)における基本的な流れを学ぶ。さらに、スポーツクラブ経営、スポーツマネジメント、スポーツメディア、アスリートのセカンドキャリア等についても学ぶ。なお、本授業はミズノ株式会社の各部門の担当者とスポーツビジネスに携わる関係者の事例を踏まえた講義を行う。	スポーツ産業における基本的な流れを学ぶことでスポーツの職業領域を理解することができる。	CSR、開発、スポーツ施設、経営、SDGs、アパレル、広報、プロモーション		◎		◎	○	○

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナン バ リ ン グ	科目 種別	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
										スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。	スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析して、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを広範かつ実用的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	人間の実生活の中で健康及びスポーツが精神、文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力を持っている。	健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有している
	ウェルネス & スポーツ	M-HES247	200	講義	2	○	ウェルネスプログラムにより自己の変革の方法を学び、生活の質(QOL)の向上を追求する。	1. ウェルネスの理論に基づき、科学的な情報を適切に咀嚼し、望ましい生き方、生活習慣に修正していく積極的な姿勢を持つことができる。 2. 身体に高い関心を持ち、より客観的に自分の日常生活を評価(現在の自分の状態に気づき)、見直しができる。 3. 生涯スポーツとヘルスプロモーションについて学び、地域社会に貢献できる能力を身につける。	ウェルネス、健康、よりよく生きる、ウェイトコントロール、身体活動、休養、ライフプランニング	◎	○		○		
	スポーツ哲学	M-HES219	200	講義	2		「体育とは何か」および「スポーツとは何か」という根本問題を、哲学的立場から明らかにするための学習を行う。	前半は体育の人間存在にのつての本質的役割を、後半はスポーツの「文化性」を理解し、多様な文化的・社会的可能性、現代の問題点を把握できる。	体育概念、関係性、重層性、超越性、文化論、スポーツ構造論		○		○		◎
	スポーツ法学	M-HES332	300	講義	2		スポーツ固有法およびスポーツ国際法のスポーツ法の体系に則しながら、スポーツ法に関する各種関係を学習する。	社会制度の基礎となっているスポーツ法の基礎知識を習得、スポーツ法に関する諸事象、諸課題を法的側面から理解できる。	スポーツ法、法的責任、スポーツ基本法、紛争解決制度、スポーツ国際法				○		◎
	体育史	M-HES220	200	講義	2	○	近代を中心に体育・スポーツ史上の主要な出来事や人物を取り上げ時代的、地域的な特徴を学習する。	歴史上の主要な出来事や人物について理解できる。それらを踏まえ、現代の体育・スポーツの諸問題について考察できる。	国民国家、近代体育、学校体育、近代スポーツ、戦時体制化の体育・スポーツ			○	◎	◎	
	生理学	M-HES111	100	講義	2	○	ヒトの細胞や組織、筋や脳神経等の各器官の役割や機能を学び、健康な人体の生理機能について学習する。	細胞や組織、筋や脳神経等の各器官に関する人体の基本的な生理機能について説明できる。	人体の機能・役割、細胞、ホメオスタシス、代謝、神経と筋、感覚、呼吸循環、消化吸収	◎	◎		○		
	実践スポーツ英語	M-ENG302	300	講義	2	○	スポーツという世界共通のエンターテインメントプログラムを教材にして親しみやすく分かり易い英語学習をすることを目的とする。	スポーツ関連の英文の読解、発話の練習、映像・音声等を教材にして、海外で活躍することを目指す選手が身につけておくべき英語力を涵養する。	スポーツ英語、英文読解、発話、内容についての議論				◎	○	
	学校保健	M-HES306	300	講義	2	○	教員免許状(保健体育科)取得を目指す学生の必修科目であり、学校保健活動に関する基礎的事項やマネジメントなどについて学ぶ。	内容理解、関連資料の活用、グループワークでの発言や進行、教育実習等や実際の学校現場において、理解したことを活用できるレディネスを身につける。	学校保健、保健体育教師、資質能力、健康教育、理論と実践				○		◎
	スポーツ社会学Ⅰ	M-SOC101	100	講義	2	○	スポーツを様々な視点から捉え、基礎となる構造や現状、技術を学習し、特徴と意義を理解する。	スポーツの基本的構造や現状を理解し、社会的に考察できる。以後の学習に繋げる知識や技術を得る。	スポーツの歴史、スポーツの意義、スポーツの特徴、社会の中のスポーツ	◎	○		○	○	
	スポーツ運動学	M-HES318	300	講義	2	○	本講義ではまず運動という現象の特性を理解し、そして運動の構造、運動の観察の仕方、さらに運動の学習過程について学ぶことによって、運動指導を分かりやすく、また効果的に行うための基礎となる知識、考え方を習得する。	1.スポーツの様々な運動について、運動構造の分析の視点と、運動観察の視点を理解できる。 2.運動構造と運動観察に基づき、自身が習得している専門種目の運動について詳細に記述し、説明することができる。 3.運動技能の学習のプロセスを理解できる。	運動指導、運動観察、動感、運動構造、運動表象、学習と位相			○	◎		○

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナン バ リ ン グ	科目 種別	単位	主 要 科 目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
										スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。	スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析して、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを広範に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	人間の実生活の中で健康及びスポーツが精神・文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力を持っている。	健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有している
人間スポーツ学・スポーツ科学共通専門科目	スポーツ経営学	M-HES322	300	講義	2	○	公共・民間両スポーツ施設に着目し、スポーツ施設での経営・管理の現状を把握し、効果的・効率的なスポーツ施設の経営・管理のあり方等について学修する。	スポーツ施設の基本的な構造や現状を理解し、スポーツ施設における現状や課題を様々な観点から捉え、考察できる。スポーツ施設を経営・管理できる知識と技術を得る。。	スポーツ施設、みるスポーグ、するスポーツ、ささえるスポーツ、スポーツビジネスの特徴、運営			○	◎	○	○
	スポーツ教育学	M-HES321	300	講義	2		「スポーツ」を人間の文化活動におけるプレイ(遊び)として多様にとらえ、学生が自らの関心を喚起し、スポーツ教育のテーマを設定・研究していくプロセスを学ぶ。	テーマを自ら発見し、探求する手法を身につけ、他者と協力して課題を遂行することを学ぶとともに、受け身ではなく主体的に学び、自らの意見を述べる力を身につける。	学校教育、体育、プレイ(遊び)、コミュニケーション活動における多様な審み、テーマの設定・研究のプロセス		◎		○	○	○
	スポーツ医学	M-HES239	200	講義	2	○	安全で健康に運動・スポーツを実施するために、スポーツ医学を内科的・スポーツ障害の視点で理解する。主な内容として、こどもの発育発達特長、生活習慣病への運動・スポーツの有効性、スポーツ選手が起こしやすい疾病、スポーツ障害の発生、リハビリ、予防、オーパートルーニング症候群、アンチドーピングなどを学修する。	生活習慣病に対するスポーツの有効な効果、過度な使用によるスポーツ障害、さらにオーパートルーニングの心身へ異常、アンチドーピングを理解するとともに、スポーツによる利益や不利益を医学的観点から理解することができる。	発育発達特長、スポーツと各器官への内科的影響、過度な使用と内科的に影響、スポーツ障害の発生、リハビリ、予防、ドーピング		◎	◎	○		○
	実技指導実践	M-SPE310	300	実習	1		将来、保健・体育教諭や社会体育系企業への就職を希望する者を対象に、器械運動、ダンス、陸上競技、球技(バスケットボール、バレーボール、サッカー)、武道(柔道、剣道)の各競技の実践能力を高めるとともに、指導方法や安全面の配慮等を学習し、それぞれの現場で役にたつ人材の育成を図る。	教員採用試験(実技)や社会スポーツ系企業の実技試験において、優秀な評価を得られること、あわせてその進路に進んだのちに、適切な指導ができる技能・技術や知識を獲得することを目標とする。	保健体育教師、スポーツ指導員、資質能力、よい指導		◎		○	○	◎
	スポーツ生理学Ⅰ	M-HES114	200	講義	2	○	スポーツ・運動を遂行する時のからだの一時的变化やスポーツ・運動の継続で適応するからだの変化について、脳神経、筋肉、エネルギー代謝、呼吸・循環系、内分泌、免疫、環境など面から講述すると共に、運動の強さや時間と酸素摂取量の関係を学修する。	スポーツ・運動遂行で起こる一時的变化や継続による適応機能を脳神経系・筋系、エネルギー代謝系、呼吸・循環系、内分泌系、免疫系などの生理機能面から理解し、さまざまなトレーニングに応用できる能力を養うことができる。	スポーツ運動の一時的变化、スポーツ運動の適応、脳神経、筋肉、エネルギー代謝、呼吸・循環系、内分泌、免疫、体温の変化	○	◎	◎	○		
	スポーツバイオメカニクスⅠ	M-HES350	300	講義	2	○	本講義では、解剖学的及び物理学的な観点から立つ、歩くをはじめとしたスポーツ活動の基本となる行動様式について、分析する方法やその考え方を学ぶことを目的とします。	履修者は機能解剖学や物理学の視点に立って人体の構造・動作の機序を理解し、基本的な人間の動作のメカニズムについて説明できる。	てことモーメントアーム、関節モーメント、立位のバランス、歩行の原理、ウェイトトレーニングのメカニクス			○			
	スポーツトレーニング論Ⅰ	M-HES243	200	講義	2	○	スポーツ選手のトレーニング指導に必要な理論や実践的な方法についての基本的事項を理解することを目的とします。	履修者はスポーツパフォーマンスを向上させるための基本的な運動プログラムについて理解し、その作成ができるようになる	ウェイトトレーニング、筋力、スピード、パワー、可動域、持久力			○			
	レクリエーション論	M-HES225	##	講義	2	○	レクリエーションの意義と重要性、支援者としての具体的な効果的な実践方法を学修する。	学校、地域、福祉施設などの場でレクリエーションを実践する力、事業を計画する力を身につける。	レクリエーションの意義、支援者の態度・テクニック、アクティビティの選択、ハードルの設定、アイスブレイキング、		◎	○	◎		
	冬期野外実習	M-SPE307	100	実習	1		スキーの技能を習得すると共に、技術体系や指導法、安全対策など、冬期野外活動の実践に必要な知識を学ぶ。	スキー技能の向上と技術体系を理解し、共同生活の中で、望ましい人間関係を築くことができる。	スキー技術体系、技能講習、安全対策、集団生活、クロスカンントリー		◎	○	○		○

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナン バ リ ン グ	科目 種別	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー						
				講義 演習 実習 PBL など						DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	
										スポーツお よび健康に ついての幅 広い教養を 身に付けて いる。	スポーツ・体育・ 健康に関する基礎 的・専門的知識や それらを活用した 指導方法を体系的 に身に付け、多様 な特性をもつ様々 な人々に対して適 切な働きかけがで きる。	スポーツ・体育・ 健康に関するデー タを収集、分析し て、人間とスポー ツとの関係を理解 し、問題解決を 図ることができる。	スポーツ・体育・ 健康に関する知識 やスキルを広範か つ実務的に活用し 、社会貢献するた めに必要なコミ ュニケーション能 力や行動力を身に つけている。	人間の実生活 の中で健康及び スポーツが精神、 文化、集団・社会 に与えるメカニズ ムを理解し、隣接 する領域と協働し ながらグローバル な視点から問題に 対応することがで きる力を持つてい る。	健康の維持・増進 への社会的ニーズ に応え、スポーツ・ 運動指導者として 求められる高い倫 理観や創造的態 度・論理的思考力 を有している	
野外教育論	M-HES224	200	講義	2	○	野外教育や野外活動において、安全に楽しむための基礎的知識や指導法について学修する。	野外教育の概念と目的および歴史を理解した上で、実際に野外キャンプを行う際に指導者として必要な安全管理、効果的な指導方法を身につける。	人間と自然の関わり、野外教育の歴史、キャンプ、キャンプカウンセリング、アイスブレイキング、ゲームアクティビティ			◎	○				
夏期野外実習	M-SPE202	200	実技	1			キャンプを安全に実施するための知識と技術を身につけ、小集団活動を通じて良好な人間関係を築くための要点を学び、一人ひとりが「良きキャンパー」となるための学習を行う。	1. キャンプを実施する上で必要となる基礎知識及び技術の習得、2. 共同生活の中で、望ましい人間関係を築く、3. 組織キャンプにおいて、生活班の指導ができる。	テントの設営、野外調理、水辺野外活動、キャンプファイアー、人間関係を作るグルーワークゲーム、自然を感じる野外ゲーム			◎	○	○		○
スポーツ科学実習：サッカー初級	M-SPE206	200	実技	1			個人の技術練習を中心に、そこで習得した技術を試合の中で発揮する事ができるようにするための学修をする。	個人技術を向上させるとともに、チームスポーツとしてのサッカーの技術や戦術を習得できる。	サッカー技術・戦術・戦略・チームスポーツ・試合			◎		○	○	○
スポーツ科学実習：球技（ベースボール型）実践	M-SPE221	200	実技	1			投・打・走・捕など、基本的な技術や戦術について学修をする。	基本的な技術や戦術を学び、それらを習得する練習の具体的な方法論を学習して実践できるようにする。	技術・戦術・戦略・チームワーク・コミュニケーション			○		◎	○	◎
スポーツ科学実習：ダンス	M-SPE211	200	実技	1			教育現場でダンスの授業を指導できるように、いろいろなジャンルに合わせたダンスの基礎、表現方法を学ぶ。	教育現場で体育の指導者として生徒の前で踊って見せられるくらいまでの基礎的技術を体得できる。	リラクゼーション、リズム練習、ステップ、身体表現、動きのバリエーション、創作ダンス					◎		○
スポーツ科学実習：テニス初級	M-SPE212	200	実技	1			On Courtの授業では、基本的なショットの打ち方を学ぶ。講義では、テニス用語、スコアの教え方、シングルス・ダブルスの試合方法、テニスのマナーなどを習得する。	簡単なダブルスができる程度のテニス技術を身につける。テニスのルール、マナー、テニス界の現状・歴史を学び、テニスを通しての外交ができる。テニスの会話が弾む知識を得ることができる。	基本的なショットの打ち方、シングルス・ダブルスの試合方法、テニスコートにおけるマナー、テニス観戦のマナー				◎		○	○
スポーツ科学実習：バスケットボール	M-SPE213	200	実技	1			バスケットボールの技術構造やルールを理解し、集団的技術や個人的技能を獲得し、基礎的なゲーム展開の方法を実習する。	・技術の構造とルールの理解 ・集団技術や個人技術の実践 ・ファンタメンタルの実践と理解 ・ボールゲーム、チームスポーツの理解	チームスポーツ、ボールゲーム、技術構造、ルール、個人戦術、集団戦術				◎		○	○
スポーツ科学実習：バレーボール	M-SPE214	200	実技	1			個人の基本的技能を身につける。ルールの理解、協調性を養う、バレーボールの特性や楽しさを体験する。	生涯スポーツの基盤づくり、スポーツの意義の認識、目標や課題の設定、ルールの理解およびゲーム方法の工夫、スポーツの楽しさを体得、基本的技術の獲得ができる。	バレーボールの特性・楽しさ、技能、ルール、ゲームの工夫、生涯スポーツ				◎		○	○
スポーツ科学実習：器械運動	M-SPE204	200	実技	1			マット、鉄棒、とび箱の各運動の基本的な技の習得を目指すとともに、段階的指導方法や練習方法を理解し、実践する。	運動構造を理解・実践し、指導できるまでにすることが必要である。同時に、授業の進め方、展開方法をも習得できる。	マット運動、鉄棒、跳び箱、回転感覚、空間認知能力、逆立ち感覚、巧緻性、身体認識力				◎		○	○

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナンバリング	科目 種別	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				講義 演習 実習 PBL など			授業科目で何を目的に学習し、どのような内容の理解を狙いとするか。	授業での教育・学習を通じて学生がどのような学習成果の達成を目指し、何を到達目標とするか。	学習の参考となる重要なキーワードなど	スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。	スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析して、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを広範かつ実際に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	人間の実生活の中で健康及びスポーツが精神、文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力を持っている。	健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有している
	スポーツ科学実習：柔道初級	M-SPE208	200	実技	1		初めて柔道を学ぶ中・高校生に対する、受け身、組み方、体さばきなどの指導法を修得するための学習をする。	初めて柔道を学ぶ中・高校生に対して、安全に効果的に指導することができる。	柔道衣の着方、礼法、受け身、組み方、体さばき、投げ技		◎		○	○	○
	スポーツ科学実習：野球初級	M-SPE216	200	実技	1		お互いが気を遣い、「楽しむスポーツ」というよりも「競技スポーツ」として授業を行う。	ゲームに勝ったり技術が上手いというよりも、チームメイトだけではなく対戦相手への思いやりや助け合い心を養うことができる。	心・技・体、公徳心		○		◎	○	◎
	スポーツ科学実習：水泳	M-SPE209	200	実技	1		練習方法及び指導法の習得、泳力の向上、指導能力の獲得。また健康・体力づくり、生涯スポーツとの関連を学ぶ。	4泳法の推進メカニズムの理解、泳法の習得、100m個人メドレー完泳、指導法と実践的な指導能力の獲得、水の特性の理解、水中での自己保全能力、完全管理能力を養うことができる。	4泳法とその泳力、指導法と指導力、水の特性、水の安全、生涯スポーツ		◎		◎		○
	スポーツ科学実習：陸上競技	M-SPE217	200	実技	1		様々な陸上競技の種目を実際に行い、その特性、ルールを学習する。	陸上競技の各種目のコツをつかみ、一定の水準の記録に到達できる。また、安全に競技を遂行し、サポートする能力を身につけることができる。	100m走、走高跳、ハードル、リレー		◎		○	○	○
	スポーツ科学実習：一般体操（スポーツ基礎運動）	M-SPE219	200	実技	1		スポーツ全般に共通する基礎的な身体操作性、様々な動きを学習する。	基礎となる運動をもとに多様な身体操作性を修得、実践できるようにする。	身体認識力、身体操作性、空間認知能力、体操の歴史		◎		○	○	◎
	スポーツ科学実習：ゴルフ初級	M-SPE205	200	実技	1		ゴルフというスポーツの技術的な側面を基本から学ぶとともに、プレーをするうえでのマナーに関しても、指導する。	ショットやパッティングなど、多岐にわたるゴルフの基本を習得し、実際にゴルフコースでプレーできるまでのレベルの獲得を目指す。	エチケット、ゴルフクラブ、ショット、パッティング		◎		○	○	○
	人間スポーツ学入門	M-HES117	100	講義	2	○	人間スポーツ学科で開講されている科目を概観し、基礎的な内容を理解するとともに、スポーツ及び健康についての幅広い教養を養う。	自分の学びたい専門領域の内容に関する基礎的な知識を習得し、適切な科目を選択できるようになる。	主題別		◎	○		○	○
	エアロビクスⅠ	M-SPE218	200	実技	2	○	エアロビックスのクラスで行う基本的な指導技術を学習し、指導できるようにする。	健康体力づくり及びスポーツ能力向上を、エアロビクス運動の理論を実践的に理解する。エアロビックスのコンディショニングとして用いられているレジスタンストレーニング（自重負荷）とストレッチングの名称と動き方を理解し、正確に実施できるように運動技能を養成する。また、実技指導の技術について学び、指導力を身につける。	レジスタンストレーニング、ストレッチング、自ら手本をみせる、キューイング、指導技術				○	○	◎
	エアロビクスⅡ	M-SPE308	300	実技	2	○	エアロビックスのクラスで行う基本的な指導技術を学習し、指導できるようにする。	健康体力づくり及びスポーツ能力向上を、エアロビクス運動の理論を実践的に理解する。エアロビックスの基本的ステップ名称と動き方を理解し、正確に実施できるように運動技能を養成する。	エアロビックス、自ら手本をみせる、キューイング、指導技術				○	○	◎

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナンバ リング	科目 種別	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
										スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。	スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析して、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを幅広く活用し、社会貢献するための必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	人間の実生活の中で健康及びスポーツが精神、文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力を持っている。	健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有している
	健康運動実習Ⅰ	M-SPE309	300	実習	1	○	健康づくりのための運動に用いられる種目の理論に基づいたプログラムの作成、指導技術を学修する。	幅広い年代の健康づくりに関する運動指導者にとって、運動や身体活動に関する国の政策や理論だけでなく、高齢者やハイスコアプローチを対象とする安全な運動指導のためには、生活習慣病の幅広い知識が必要不可欠である。本実習では、これらの基礎知識を習得するとともに、運動指導の効果についても学習する。これらの理論的背景に基づき、健康運動指導士として指導技術を実践できる能力を養成する。	ウォーミングアップ、クーリングダウン、ストレッチング、ウォーキング、ジョギング、理論に基づいた運動プログラムの作成		◎	○	○	○	
	健康運動実習Ⅱ	M-SPE302	300	実習	1	○	高齢者の体力測定と評価、介護予防・運動や生活習慣病の適切な運動療法を学ぶ。	高齢者やハイスコ者を対象とした安全で効果的な運動指導の補助ができる。	高齢者、ハイスコ者、介護予防、生活習慣病、運動療法、高齢者の体力測定と評価、介護予防に関する体力測定と評価		◎	○	○		◎
	健康管理論	M-HES357	300	講義	2	○	健康管理に関する基盤的・基礎的な理論・方法等を修得し、実践の活用に応ずる能力を培う。	・健康概念、ヘルスプロモーション、健康づくり施策等、健康管理の基盤的理論・枠組みについて学修する。 ・栄養、運動、生活習慣病等、健康管理に必要な基礎的内容・方法について学修する。 ・健康管理の基盤的・基礎的な学修を踏まえ、地域・学域・職域での健康管理の実践的活用に応ずる能力を培う。	健康概念、ヘルスプロモーション、健康づくり、健康成立要件、危険因子		◎	○			
	健康産業施設等現場実習	M-HES408	400	実習	3		健康運動指導士としての職務や職業人として大切なホスピタリティーを学ぶ。	健康産業施設等現場実習前(事前)、実習中(実施中)、実習後(事後)において必要な準備と実践を行う。現場実習を通じて、運動と健康づくりの重要性や運動に関わる指導者としての役割、授業で学んだ基礎知識が現場でどのように活かされているのかを体験する。また、運動指導者として必要な基礎力、応用力について理解する。また、本授業は健康づくりの現場等での実務経験を持つ教員がその経験を活かし、健康づくりの中で健康運動指導士に求められる実践的、具体的な役割、知識、スキルを学ぶことができる。	健康運動指導士、インターンシップ、マナー、ホスピタリティ、外部施設、体験		◎	○	◎		○
	コミュニティスポーツ論	M-SOC320	300	講義	2	○	スポーツと地域の関係性を、振興と地域づくりの観点から理解し、スポーツによる地域づくりの種類と方法、現状と課題を学ぶ	地域とスポーツの関係が変まってきた背景、その地域づくりの方法、効果、課題を理解し、地域づくりについて意見を持ち実際の企画をたてられる。	スポーツと地域の結びつき、スポーツイベント、スポーツとまちづくり、地域のクラブとまちづくり		○		◎	○	
	健康心理学	M-HES238	200	講義	2	○	健康行動、心身相関現象、ストレスマネジメント、ライフスタイルおよびパーソナリティ特性と健康との関連を学修する。	自らの健康を向上させることができるようになり、さらに家庭、地域、学校、職場の健康増進に貢献できる能力や態度を養うことができる。	健康行動、心身相関現象、ストレスマネジメント、ライフスタイル、パーソナリティ特性		◎	○		○	
	スポーツ社会学Ⅱ A	M-SOC210	200	講義	2	○	スポーツが社会の多様な要素とどのように影響を及ぼし合いながら社会の中に位置づいているのかを、主にオリンピックを事例として学修する。	スポーツ、とりわけオリンピックについて、一般的な「良いイメージ」とはわれず、それと社会の関係、課題等を理解できる。	オリンピックの理念、オリンピックと国家、オリンピックとビジネス、オリンピックと政治		○		○	◎	
	スポーツ社会学Ⅱ B	M-SOC211	200	講義	2	○	社会におけるスポーツの現状や多様な要素とどのように関連しているのかについて学修する。	スポーツにおける多様な現象と問題点について、スポーツそれ自体のみに原因を求めるのではなく、社会の要素と関連付けて理解できる。	スポーツとジェンダー、スポーツのグローバル化、スポーツと暴力、キャリア形成		○		○	◎	

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナンバリング	科目 種別	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				講義 演習 実習 PBL など						スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。	スポーツ・体育・健康に関するデータを取集、分析して、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを広範かつ実際的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	人間の実生活の中で健康及びスポーツが精神、文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力を持っている。	健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有している
学 科 別 専 門 科 目	スポーツ指導論	M-HES356	300	講義	2	○	本講義ではスポーツ指導者に必要な適性と能力(思考・態度・知識・技能)を総合的に学ぶ。受講生は、自分自身のプレイヤーとしてのスポーツや競技に対する考え方やコーチとの関係性について内省し、指導者となるためにどのような知識や考え方が必要であるのかを考察する。さらには指導者として身につけるべき態度や行動、モラルについて理解を促す。	・スポーツの本質的な特性を説明できる ・ハラスメントなどの倫理的な問題と、その発生の背景を説明できる ・自身のスポーツに対する欲求や価値観を説明することができる。 ・選手の意欲や能力に応じたリーダーシップスタイルの違いを説明できる。 ・相互理解を深め、建設的な関係を生み出すコミュニケーションスキルの要諦を理解する。	スポーツの本質 コーチングの哲学 リーダーシップのスタイル コミュニケーションスキル		◎	○	○		◎
	運動トレーニング基礎理論Ⅰ	M-HES109	100	講義	2	○	健康の保持・増進、リハビリテーションおよび競技スポーツのためのトレーニングについて、その目的・方法および効果を、運動トレーニングの科学的基礎にもとづいて学修する。	健康の保持・増進、リハビリテーションおよび競技スポーツのためのトレーニングについて、その目的・方法および効果を、運動トレーニングの科学的基礎にもとづいて説明できる。	運動、スポーツ、トレーニング、健康、運動プログラム		◎	○	○		
	運動トレーニング基礎理論Ⅱ	M-HES236	200	講義	2	○	健康の保持・増進、リハビリテーションおよび競技スポーツのためのトレーニングについて、トレーニング効果を高めるためのコンディショニングおよびトレーニングに關係する最近のトピックを理解する。また、安全性と効率性をもった適正な選択や運動プログラムについて学修する。	健康の保持・増進、リハビリテーションおよび競技スポーツのためのトレーニングについて、トレーニング効果を高めるためのコンディショニングおよびトレーニングに關係する最近のトピックを説明できる。また、安全性と効率性をもった適正なトレーニングの選択や運動プログラムについても説明できる。	運動、スポーツ、トレーニング、健康、運動プログラム		◎	○	○		
	スポーツジャーナリズム	M-HES325	300	講義	2		「スポーツとは何か」「スポーツの光と影」「スポーツの真実」を学修する。	マスコミを目指す者だけでなく、スポーツに関わる指導者、教職、商社、公務員などを志す者が、スポーツの魅力を伝えられる実践的理解を身につける。	現場で起きた具体例、指導者の暴力、パワーハラスメント		◎		○		○
	スポーツ文化論	M-HES359	300	講義	2	○	現代社会においてスポーツ文化の主流は「近代スポーツ」である。しかし、近代以前の「過去スポーツ」はそれとは全く異なる特徴を持っている。また、主流の「近代スポーツ」とは別に地域固有の文化として「民族スポーツ」も存在する。この講義では、これら「過去スポーツ」「民族スポーツ」の文化的特徴を理解した上で、それらと「近代スポーツ」との文化的差異、および相互の関係性を検討する。	・「過去スポーツ」文化について、歴史的背景、社会との関係性からその特徴を理解できる ・「民族スポーツ」文化について、固有の歴史および地域性からその特徴を理解できる ・「過去スポーツ」「民族スポーツ」という2つの文化特性から「近代スポーツ」文化を相対化し、その特性を理解できる	未開社会のスポーツ、古代社会のスポーツ、古代オリンピック、前近代のスポーツ、スポーツの象徴性、民族主義とスポーツ		○		◎	◎	
	現代スポーツ文化比較論	M-HES360	300	講義	2	○	「スポーツ」といえば一般的にオリンピックで行われるような国際的スポーツがイメージされる。それはグローバル化し世界を一様に覆っている。しかし実際には同じスポーツ文化であるにもかかわらず、社会との関わりによって例えば国によってルールの特性が異なる。プレイスタイルが異なるなどの差違が存在する。この講義では、現代社会のスポーツ文化を比較し、そこにみられる差違を社会との関係から理解する。	・同じスポーツ文化の中で、社会やそこでの思想的特徴によって、ルールの特性やプレイスタイルの違いが生じることを理解できる。 ・同じスポーツ文化の中で、歴史的な変化によって、競技特性に変化が生じることを理解できる。 ・近代スポーツとポスト近代のスポーツにおいて、ベースにある思想や価値に違いがあることを理解できる	社会の特性とスポーツルール、日米野球文化、綱引き文化の変容、柔道からJUDOへ、		○		◎	◎	
	生涯スポーツ論	M-HES316	300	講義	2	○	生涯スポーツの歴史や社会的背景、意義、また具体的な政策やイベントを学ぶことによって、健康で豊かなライフサイクルを送るための基礎知識を得る。	生涯スポーツの基本的な考え方や理論を理解し、スポーツ界の現状や課題を様々な観点から捉え、考察できる。加えて、将来スポーツ界で活躍できる知識を得る。	スポーツ基本計画、生涯スポーツ社会の実現、生涯スポーツの歴史、政策、イベント		○		◎	○	○
	健康栄養学Ⅰ	M-HES237	200	講義	2	○	日本人の健康と栄養状態の歴史を振り返りながら、栄養や食生活と健康の関わりについて学修する。加えて正しく栄養情報を伝える能力「健康栄養リテラシー」について学ぶ。さらに、栄養素、食品、料理などの基本的な知識、健康的な食生活を行うための具体的な食事法、サプリメントの扱い方などを学んだうえで、自分自身の食生活を振り返る。	1)ヒトの健康と食生活が深く関わっていることを理解し、食に関わる適切な情報を正しく選択・利用できる 2)栄養素、食品、料理などの基礎的な知識を修得し、健康を考えた適切な量、栄養バランス、食べ方を理解し、実践できる。 3)自分自身の食生活を評価できる。	食生活と健康、健康栄養リテラシー、保健機能食・サプリメント、栄養アセスメント		◎	○		○	
	健康栄養学Ⅱ	M-HES349	300	講義	2	○	幅広い側面から「食」を捉え、健康との関係を探り、学びを深める。食文化やおいしいさ、環境と食生活、生産・流通・消費、食の安全・安心、青少年から高齢者までのライフステージごとの食事・栄養の問題、そして、未来の食など、食をとりまく様々な事柄について広く学び、健康に生きることの大切さを理解する。	1)私たちの食生活や健康は、文化、社会、環境との関わりが深く、多くの人々や法律・規則、システムのように成り立っていることを理解し、日々の食事を大切に考え、実践できる。 2)ライフステージに応じた栄養上の問題点を理解し、健康維持のための適切な食生活を実践できる。	食文化、食と環境、生産・流通・加工・消費、安全・安心、ライフステージ別栄養マネジメント		◎	○	◎	○	

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナン バ リ ン グ	科目 種別	単位	主要 科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
										DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				講義 演習 実習 PBL など						スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。	スポーツ・体育・健康に関するデータを取集、分析して、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを広範かつ実際的に活用し、社会貢献するために必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	人間の実生活の中で健康及びスポーツが精神、文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力を持っている。	健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的態度・論理的思考力を有している
スポーツ政策	M-HES326	300	講義	2	○	わが国のスポーツ政策を中心として、スポーツ環境の現状と課題におけるスポーツ政策の意義や役割について学修する。	スポーツ政策の基本的な変遷や財源、組織等について理解し、スポーツ界の現状や課題を様々な観点から捉え、考察できる。スポーツ界で活躍できる知識を得る。	スポーツ基本法、スポーツ基本計画、スポーツ振興政策、海外のスポーツ政策、地域	○	◎		◎	○		
スポーツビジネス論	M-HES361	300	講義	2	○	スポーツ産業の特徴について理解した上で、スポーツビジネスを行うための基本的な知識とノウハウを学修する。	スポーツ産業の基本的な考え方や理論を理解し、スポーツ界の現状や課題を様々な観点から捉え、考察できる。スポーツ界で活躍できる知識を得る。	みるスポーツ、するスポーツ、ささえるスポーツ、スポーツプロダクト、ファンマネジメント		○	○	◎	○		
スポーツマネジメント論	M-HES362	300	講義	2	○	スポーツマネジメントの特徴について理解した上で、スポーツクラブや施設の運営を行うための基本的な知識とノウハウを学修する。	スポーツマネジメントの基本的な考え方や理論を理解し、事例を踏まえながらスポーツ界の現状や課題を様々な観点から捉えられる。スポーツ界で活躍できる知識を得る。	みるスポーツ、するスポーツ、ささえるスポーツ、スポーツイベント、クラブ運営、施設運営		○	○	◎	○		
応用スポーツ医学Ⅱ（含実習）	M-HES353	300	実習	2	○	運動を安全かつ効果的に行うために、運動実施による生理学的変化と運動実施による身体組成や生化学検査への影響を学習する。	実習を通して運動による生体学的変化について理解し、実践に活用できる。	スポーツ、医学、運動負荷試験、救急蘇生、外科的処置		◎	○	○	○		
運動療法学	M-HES352	300	講義	2	○	代表的な生活習慣病の症例を通して、適切な運動や生活動作、運動の実施方法や注意点、効果の確認方法等について学習する。運動プログラムの作成についても学ぶ。	代表的な生活習慣病の症例において、運動や生活動作が適切なものである運動の実施方法や注意点、効果の確認方法を身につけて運動プログラムが作成できる。	生活習慣病、介護予防、健康づくり、メタボリックシンドローム、肥満症、高血圧、脂質異常症、運動プログラム		◎		◎	○	○	
運動処方論Ⅰ	M-HES235	200	講義	2	○	運動習慣は、生活習慣病やライフスタイルを改善し健康寿命を高めることが期待される。近年では、健康づくりのために運動処方の概念が確立されてきている。本授業では、運動処方の理論や実践の背景となる科学的根拠を解説し、健康チェック、メディカルチェック、体力測定、体力判定の考え方などを理解できるように運動処方の基礎的理論を学修する。	健康づくりの運動を安全でしかも楽しく継続させるために、必要な体力的・医科学的な運動処方理論（運動様式、運動処方の原則である運動種目・強度・時間・頻度・時刻・期間）を理解し、理論を背景とする運動処方のプログラム作成法を習得することができる。	ライフスタイル、運動処方の概念、運動処方の理論と実践などの科学、健康チェック、メディカルチェック、形態・体力測定、総合判定、運動処方のプログラム作成		◎	◎	○		○	
運動処方論Ⅱ	M-HES348	300	講義	2	○	運動習慣は生活習慣病やライフスタイルを改善し健康寿命の向上が期待される。本授業では、運動処方論Ⅰで学んだ理論を背景に運動処方プログラムの具体的な作成法について演習を行いながら学修する。	運動処方論Ⅰで学んだ理論を運動処方のプログラムを作成するために必要な方法を学び、より具体的に実践できる能力を養うことができる。	運動処方のプログラム作成、具体的な実施方法、より実践的な手法、演習		◎	◎	○		○	
食と健康マネジメント演習A	M-HES251	200	演習	2	○	本授業では、健康栄養学Ⅰ、Ⅱの講義で学んだ内容をふまえ、グループで実験・実習を行うことで応用力やコミュニケーションスキル等を磨く。具体的には、食の美味しさに関わる官能検査、味覚と身体活動の関わり、健康状態を把握するための栄養アセスメントについて、楽しく、実践的に学びを深める。	・消費者として、食品の開発の基本となる美味しさを理解することができる。 ・身体活動と味覚の関係を理解し、適切な飲料の選択・水分補給が実践できる。 ・栄養アセスメントの方法を修得し、適切に実践することができる。	美味しさ、官能検査、味覚と運動、栄養アセスメント、実験、グループワーク		○	◎	◎	○		
食と健康マネジメント演習B	M-HES252	200	演習	2	○	本授業では、健康栄養学Ⅰ、Ⅱの講義で学んだ内容をふまえ、グループで実験・実習を行うことで応用力やコミュニケーションスキル等を磨く。具体的には、健康的な食事の整え方、日本と世界の食文化、食品衛生や食品表示など食品選択に必要なスキルを、楽しく、実践的に学ぶ。	・健康的な食事の整え方を理解し、自身で調理や購入ができるスキルを身に付ける。 ・日本と世界の食文化について理解し、自身の食生活に活用することができる。 ・消費者として、食品の安全・安心や食品表示等に関わる知識を理解し、日常生活に生かすことができる。	Healthy Eating、食文化、食の安全・安心、サプリメントと食品表示、調理実習、グループワーク		○	◎	◎	○		

授業科目区分	授業科目名	科目コード/ ナンバ	ナンバリング	科目種別		単位	主要科目	1. 科目の目的	2. 科目の到達目標	3. キーワード	4. ディプロマポリシー					
											DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
				講義 演習 実習 PBL など							スポーツおよび健康についての幅広い教養を身に付けている。	スポーツ・体育・健康に関する基礎的・専門的知識やそれらを活用した指導方法を体系的に身に付け、多様な特性をもつ様々な人々に対して適切な働きかけができる。	スポーツ・体育・健康に関するデータを収集、分析して、人間とスポーツとの関係を理解し、問題解決を図ることができる。	スポーツ・体育・健康に関する知識やスキルを広範に活用し、社会貢献するための必要なコミュニケーション能力や行動力を身につけている。	人間の実生活の中で健康及びスポーツが精神、文化、集団・社会に与えるメカニズムを理解し、隣接する領域と協働しながらグローバルな視点から問題に対応することができる力を持っている。	健康の維持・増進への社会的ニーズに応え、スポーツ・運動指導者として求められる高い倫理観や創造的・論理的思考力を有している。
	幼児体育指導	M-EDU208	200	講義	2	○		様々な身体運動を通して心身ともに健全な幼児に育てる人間形成の一つであると考えられる。「幼児」の実態を知り指導の目標を立て、指導方法を工夫・検討し、実践を行う。	幼児の身体・発育・発達などを理解したうえで、各場面に合った運動指導ができるように、運動の内容や指導方法・補助を学び、実践できるようになる。	運動指導、幼児の身体運動、発育・発達、幼児期の動き、36の動き、運動指導法	○	◎		○		◎
	発育・発達論	M-HES256	200	講義	2	○		乳幼児期から壮年中高年期におけるからだの発育・発達に関する特性について解説し、身体運動との関連性を考慮しながら学修する。	人間の一生における発育・発達と老化に関する特性について十分に理解し、説明することができるようにする。	身体の発育・発達、身体運動との関連性、運動指導、幼児期、児童期、青年期	○		◎			○